

幼児教育史学会 会報

第 22 号

目 次

第 12 回大会開催案内

海外保育に関する研究情報

レッジョ・インスピレーションとスウェーデンの保育

……………太田素子

新入会員・会員異動

寄贈図書

事務局からのお知らせ

第 12 回大会開催案内

第12回大会は2016年12月10日（土）に大阪吹田市の千里金蘭大学で開催いたします。吹田市は大阪の北にあり、千里ニュータウンや万博記念公園、国立民俗学博物館などが有名ですが、旧石器時代の石器、縄文・弥生時代の出土品や古墳時代の古墳、平安時代の寺院などもあり、古代から文化が栄えた地域です。

千里金蘭大学は千里金蘭短期大学を前身とし、2003年4月に4年制女子大学として開学しました。母体の学園は、1905年（明治38年）、大阪府立堂島高等女学校の同窓会「金蘭会」の女性たちが、日本に高等女学校がほとんどない中で入学できずに泣く女子を助けたいとの思いで、「私立金蘭会女学校」を設立したことにさかのぼり、以降110年の歴史の中で、中学から大学までを擁する小さいながらも女子教育の総合学園となっています。

大学のすぐ近くには、秋に美しく色づく楓の並木道で有名な三色彩道があり、学会が開催される時期、暖冬でしたら名残の紅葉が皆様をお出迎えすることと思います。

翌日の11日（日）には、恒例の愉フォロ会（海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会）が開催されます。あわせてぜひご参加ください。

詳しいプログラム等は10月に発送する予定ですが、最新の情報は学会ホームページで適宜お知らせいたします。大会実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

（第12回大会実行委員：早田由美子）

大会開催要項

1. 期日：2015年12月10日（土）

2. 会場：千里金蘭大学3号館9階大会議室（〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5-25-1）

※JR新大阪駅から地下鉄とバスで約30分です。大阪空港からモノレールと阪急電車またはバスで約40分です。

3. 日程（予定）：

9:30～ 受付

10:00～13:00 研究発表

14:00～16:30 シンポジウム

16:45～17:30 総会

18:00～20:00 懇親会

4. シンポジウム

テーマ：江戸の子育てから明治のキンダーガーデンへ

提案者：太田 素子（和光大学）

是澤 博昭（大妻女子大学）

司会：オムリ慶子（関西学院大学）

福元真由美（東京学芸大学）

（趣旨説明）

今年の幼児教育史学会シンポジウム・テーマは「江戸の子育てから明治のキンダーガーデンへ」です。江戸の子育ての特徴と江戸から明治の幼稚園に至る過程の子育ての態様や価値の変化に注目し、260年以上平和が続いた江戸時代に育まれた思想、しかし、我々が西欧から学ぶ際に縮小させた思想を再度見直すとともに、新しい文化・価値が流入した明治期の教育要求の意味を考えます。

5. 大会参加費・懇親会費

大会参加費：会員・非会員1000円／院生無料

懇親会費：会員・非会員5000円／院生3000円

※前納方式は採りませんので、当日受付でお支払い下さい。

6. 研究発表の申し込み

①申し込み方法

同封の申込書（学会HPからもダウンロードできます）に記入の上、9月5日（月）までに（消印有効）、電子メールまたは郵便にて学会事務局へお送りください。電子メールの場合のみ、数日以内に到着確認のメールを返信します。

郵送先：〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学 小玉亮子研究室気付 幼児教育史学会事務局

メール：admin@youjikyokushi.org（学会事務局）

②発表資格

一般会員：申し込み時に年会費を納入済みのこと

新入会員：申し込み時までに入会手続きを終え、年会費を納入済みのこと

③発表時間

一人（1グループ）あたり30分（質疑応答5分を含む）を予定していますが、変更する可能性もあることをご了解ください。

④発表受付手順

学会事務局で申し込みを受領した後、理事会にて発表内容を検討します。その結果、発表数調整のため、個別に連絡を差し上げる場合があります。理事会で発表者を確定した後、大会実行委員会から発表要旨集の執筆要領を送付します。なお、発表要旨集の原稿提出締切は11月10日（木）の予定です。

7. その他

①千里金蘭大学までは、アクセス・マップ（<http://www.kinran.ac.jp/access/access.html>）をご覧ください。駐車場の用意はありませんので、公共の交通機関をご利用ください。

②12月10日（土）の昼食については、事前にご準備をお願いします。最寄りの北千里駅、千里中央駅にコンビニ・スーパーなどがあります。

③懇親会の会場は、参加していただきやすい場所として北千里駅より徒歩2分のリラックス・キューブ（イタリアン）を予定しています。ぜひご参加ください。

④宿泊：千里中央駅、江坂駅、南千里駅、万博記念公園駅、新大阪駅などにあるホテルが比較的近く便利です。

★同日（12月10日、11日）、本学で「子どもの権利条約フォーラム2016in関西」も開催されます。

また、大阪を訪問される外国人観光客数が著しく増加しています。

★★★宿泊予約が取りにくいことが予想されますので、なるべく早めに宿泊予約をされることをお勧めします。

<関連企画>

愉フォロ会

（海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会）

日時：12月11日（日）9：30～12：00（大会翌日）

会場：千里金蘭大学 3号館7階712教室

報告者：神戸松蔭女子学院大学 吉田直哉

「乾孝の「伝えあい保育」論に対する政治理論の影響

—湯川和夫の民主主義論との対話に着目して—

大阪国際大学短期大学部 久保田健一郎

「玩具と子どもの人間形成論」

問い合わせ先

〒565-0873 阪府吹田市藤白台5-25-1

千里金蘭大学 生活科学部児童教育学科 早田由美子研究室気付

幼児教育史学会第12回大会実行委員会

電話：06-6872-7797（児童教育学科子ども支援協働研究室）

06-6872-7294（早田研究室直通）

メール：y-hayata@cs.kinran.ac.jp

海外保育に関する研究情報

レッジョ・インスピレーションとスウェーデンの保育

太田 素子(和光大学)

サバティカルをいただいて、約1ヶ月ヨーロッパを放浪してきた。大学に残っている同僚たちの苦労をメールから窺うにつけ、一日も無駄にできないような気持ちになっていた。研究が途中で中断していたレッジョ・エミリア・アプローチのその後とヨーロッパの保育研究、とくにレッジョのインパクトを国家レベルで受け止めたスウェーデンのレッジョ理解に学んでみたいと考えていた。

ストックホルムには約2週間滞在して、3人の重要人物と意見交換し、レッジョ・アプローチを意識した実践をしている6つのフォッシュコーレ(就学前学校と訳されているが...?)、とくに意識していない公立のフォッシュコーレ2つ、小学校の中にある就学前学校クラス(6歳児クラス)を二つ(一つは授業を見学、いまひとつは学童保育の時間に)見学させていただいた。長年スウェーデンの保育を研究している水野恵子さん(元日本女子体育大学)に案内していただき、現地の通訳の方々が大変助けられた。水野さんはレッジョ・インスピレーションという視覚からスウェーデンの保育を検討することはしてこなかったということで、二人が協働で見学できたことには意味が大きかった。これら見学の詳細は、機会を改めて詳しくご報告したい。

スウェーデンでは、レッジョ・アプローチと言わず「レッジョ・インスピレーション」と言う。実践する人によって、レッジョの受け止め方や影響は異なったものになるから、だそうだ。レッジョからかなり真剣に、丁寧に学んでいるが、実践は自由で主体的なのだろう。最初にお目にかかった「レッジョ・インスティテュート」所長のグレガーさん(Greger Rösnes)は、マラグツイを始めレッジョ・エミリアのスタッフが本格的に移植に協力した「ストックホルム・プロジェクト」の出発の時から参加していた実践家で、今でもイタリアのレッジョ・チルドレンの研究活動に参加している。ご自身のドキュメンテーションをもとに、「教育的ドキュメンテーション」の意味を詳しく話してくださった。「ドキュメンテーション」に教育的、とつけることについて、グレガーさんは、目的や目標が決まっている実践のドキュメントと区別するためであると、この言葉を強調していた。スウェーデンで

も、昔からキルパトリック型のプロジェクト活動が先行していたせいなのだろうか。また、ナショナルカリキュラムにもこの言葉が採用されているので、一般的な「記録」という言葉と区別するためという説もあるようだ。

2番目にお目にかかったのは、グニラ・ダールベリ（Gunila Dahlberg）さん。レッジョの展示で衝撃を受け、マラグツツイに、ストックホルム・プロジェクトを提案されて、大臣に手紙を書き、レッジョ・インスティテュートを立ち上げた研究者だ。今年定年で、ストックホルム大学名誉教授になっている。ロンドン大学のピーター・モスなどと共同で書いた“Beyond Quality—in Early Childhood Education and Care”は世界12カ国で翻訳されたという。イタリア語に翻訳されたレッジョに関する唯一の外国語文献だと笑って話された。口調はとても静かで、でも明確な意見を持つ論客である。本には、デューイやヴィゴツキーとともに、フーコーやハーバーマスの名が出てくる。生活綴り方教育の遺産の話をしたら、「共通しますね」と目を見つめて応じていただいた。

3番目は、イングリッド・エングダール（Ingrid Engdar）さん。ストックホルム大学准教授、OMEP SWDEN 代表で、白石淑江さん（スウェーデンの保育について2冊の本を出版されている）の招きで3回日本にこられている。現場出身者としての確信を持っておられ、「良い保育者なら、教育学的ドキュメンテーションと（従来型の）ポートフォリオを統一することは難しくない」と言い切っておられたことが印象深かった。

スウェーデンは、1932年から社会民主党が政権をとってきたが、保守政党が2006年から2014年まで政権をとったため、その政策の影響がいろいろなところに出てきている。にもかかわらず、ナショナルカリキュラムは教育学的ドキュメンテーションとリフレクションの重要性をうたっているし、リーダー達は聡明にスウェーデンの保育の発展方向を見据えていると感じた。白石さんのこれまでの研究は、スウェーデンの質の高い保育事業の包括的な紹介・検討を試みた仕事で、ある施設のプロジェクト活動の事例紹介もそのなかで行われた。大野歩さんの先行研究は、レッジョとの出会いによって生まれた「教育学的ドキュメンテーション」に注目した研究だが、近年ストックホルムのある地域で生み出されたツールボックスに注目しており、受容の過程そのものの検討は行われていない。

ちょうど保育所が社会福祉省の管轄から教育省に移管され、フォッシュコーレが学校として法的な体系に組み入れられる時期にレッジョ・インスピレーションと出会ったことは、この国の保育研究に大きな足跡を残している。その足跡を正確に理解しようとする、レッジョ・アプローチそのものの理解とスウェーデンのそれまでの保育研究に対する理解の双方が求められる。水野さんと私は、レッジョ・インスピレーションに正面から取り組んだ地域・保育者の実践を手掛かりに、スウェーデンにおけるレッジョ・インスピレーションの受け止め方をみつめ、ヨーロッパのダイナミックな保育研究運動の一つの断面について理解を深めたいと考えている。

新入会員・会員異動

(省略)

寄贈図書

近藤幹生・塩崎美穂『保育の哲学2』ななみ書房、2016年。

事務局からのお知らせ

1) 会費納入のお願い

本学会の会計年度は10月1日から翌年の9月30日までです。今回、振込用紙は、会費納入状況を確認のうえ、第11回大会年度(2015年10月1日～2016年9月30日)とそれ以前の年度の会費が未納の方にお送りしております。払込用紙に記載された未納分年度、金額をご確認のうえご納入ください。

年会費：一般会員 7,000円、特例会員 4,000円
送金先：口座番号 00190-9-73668 加入者名 幼児教育史学会

今回は該当の会員にのみ振込用紙を同封していますので、それが入っていない会員は完納状態にあります。なお、2016年6月10日現在の会費納入状況をもとに請求させていただいております。本状と行き違いでご納入いただきました場合は、何卒ご容赦ください。

2) 会報原稿の募集

会報を通じて研究情報の提供と研究者間の交流に努めています。会員研究情報、新会員の自己紹介(全員の方をお願いしています)、海外幼児教育だより、幼児教育史研究への提言などをお寄せください。文量は3000字程度で、メールまたは郵便で、なるべくデータを付けて事務局までお送りください。年2回の会報発行時まで届いた分を随時、掲載します。次回の会報は2017年2月頃に出る予定です。

3) 所属・住所などの変更届けに関するお願い

変更が生じた場合は事務局までお知らせください。

幼児教育史学会会報 第22号 2016年 6月 30日

発行者 幼児教育史学会
〒112-8610 文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学 小玉亮子研究室気付
幼児教育史学会事務局
Tel/Fax: 03-5978-5342
E-mail: admin@youjikyokushi.org
郵便振替 00190-9-73668